

はじめに

新しい学習指導要領が本格実施され、教育の新たな時代が拓かれたこの一年は、子どもたちに「生きる力」を育むことをめざした今回の教育課程の理念を実現していくために、移行期の中で各方面が創意工夫をこらして進めてきた取組を確かなものへと具現化していく重要な年でした。

京都市におきましても、「今を生き、次代を拓く力の育成」という本市教育の最高目標のもと、重点課題に即した10項目について、この一年間、研究を積み、確かな教育の営みを創造するために実施した調査の結果や、今後の教育課題に応えるために開発し実践した先行的な学習プログラムの成果などをここにまとめました。

本研究紀要の第一巻では、「確かな学力を育むために」をテーマとした研究をまとめました。学習評価の改善の中でもとりわけ重視される自己評価の在り方、「理科好きな子ども」を育てるための小・中一貫をめざした学習の試み、各教科における情報手段の活用場面を明確にして取り組んだ情報教育の実践、よりよい学習指導の在り方を探るための小・中学生の学習意欲の調査、そして、教員自らが力量を高めるための研修の在り方を探る調査結果という五編の研究成果を掲載しております。

第二巻では、「豊かな人間性を育むために」をテーマに五編の研究をまとめています。家庭との連携の在り方を探るために実施した子どもと保護者1000組へのアンケート調査の結果、個に応じた具体的な実践を通して探った特別支援教育の在り方、職場体験を活かして生き方に迫った道徳教育の実践、トレーニング・ミーティング・コーチングの在り方を見つめ直して取り組んだ「心の健康」を育む運動部活動の実践、そして、教育課程全体を人権の視点から見つめ直して取り組んだ中学校での人権学習の実践を掲載しております。

いずれの研究も、関係各課との密接な連携のもと、今日求められている緊急の教育課題に取り組んだもので、各学校での教育計画作成のための基本的データとして、あるいは教育活動を進める上での実践事例として、生かしていただけるものと思っております。

「不確実な時代」といわれるからこそ、「確かな教育」が求められています。そうした期待に応え「今を生き、次代を拓く力」を子どもたちに育てていくために、当センターも、来年度より「総合教育センター」としてカリキュラム開発支援センターを発足させるなど、さらに充実を図る中で、今を見据え、先を見通して今後とも研究を進めてまいりたいと考えております。

確かな教育の営みに、日々精励されている先生方のお取組のご参考にご供するところが少しでもあればと願いますとともに、忌憚のないご意見をお寄せいただきたく存じます。

最後になりましたが、各研究を進めるにあたり、ご協力いただきました研究協力員及び研究協力校の先生方、並びに関係者の方々に、心から御礼申し上げます。

平成15年3月

京都市立永松記念教育センター
所長 清水 武